

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2018年1月8日～2018年1月14日】

[当地報道をもとに作成]

平成30年1月16日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼「大統領」のスルプスカ共和国訪問(9日―11日)

・ビビロフ「南オセチア共和国大統領」がボスニア・ヘルツェゴヴィナの一部であるスルプスカ共和国を訪問。ドディク・スルプスカ共和国大統領と会談し、1月9日の「スルプスカ共和国の日」の行事に参加。メドエフ「南オセチア共和国外相」がクロキッチ・スルプスカ共和国経済関係・地域協力相と協力覚書に署名。「南オセチア共和国」の「与党」である統一オセチア党と「ド」スルプスカ共和国大統領の独立社会民主主義者連合との間でも協力議定書への署名が行なわれた。

・ジョージア外務省はボスニア・ヘルツェゴヴィナ政府に抗議書簡を送付。

・10日、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ外務省は訪問を事前に承知していなかったとして、ボスニア・ヘルツェゴヴィナはジョージアと相互に領土一体性・主権を尊重し合っており、南オセチアの問題の平和的な解決を望むとの声明を発表。

・11日、ツルナダク・ボスニア・ヘルツェゴヴィナ外相がスルプスカ共和国の首都にて記者会見を行なった。「ツ」外相は、ビビロフ「南オセチア共和国大統領」を受け入れたことで、スルプスカ共和国は国際場裡において自らを「著しく貶めた」として、ボスニア・ヘルツェゴヴィナはジョージアとの良好な関係の継続を望むと述べた。

2. 外 交

▼Resolute Supportミッション(11日)

・第4 機械化旅団の100名の兵士がNATOのResolute Support ミッションに参加するためアフガニスタンへ出発。
・イゾリア国防相はトビリシにてニコルソン Resolute Support ミッション司令官と会談し、同ミッションやNATOによるジョージア防衛準備態勢プログラムなどについて議論した。

3. 内 政

▼大統領国会担当補佐官の任命(8日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領はドリゼ大統領国会担当補佐官を司法最高評議会の評議員に任命(任期4年)。「マ」大統領は会見を開き、2012年以降、司法制度は大きく改善されるとの期待があったが、「現在も司法制度は国民の多くの疑問に答えられていない」として、司法制度の改善の必要性を強調。

・「マ」大統領は、「ド」大統領国会担当補佐官の後任に、ナツヴリシヴィリ前ジョージア青年法律家協会会長を任命した。

▼テロリストを支援した容疑者の逮捕(9日)

・11月のトビリシ市内での特殊作戦で拘束・殺害されたテロリスト集団を支援していた容疑で、パンキン渓谷住民の男性1名を拘束。男性はチャタエフらのグループをトルコからジョージアへ車で入国させたとされる。

▼特殊作戦で負傷した容疑者の死亡(10日)

・12月のパンキン渓谷での特殊作戦で頭部に銃撃を受けて負傷し、治療を受けていた18歳の男性が病院にて死亡。

4. 経 済

▼世界銀行による経済成長予測(10日)

・世界銀行は2018年のジョージアの経済成長率を4.2%と予測。更に、2019年に4.7%、2020年に5.0%の成長を見込む。

▼空港利用者数(11日)

・ジョージア航空局の資料によれば、2017年のジョージア国内の3つの国際空港の利用者数は4,073,959人。前年比43.43%増。トビリシ国際空港3,164,139人(前年比40.47%増)、バトゥミ国際空港495,468人(同58.69%増)、クタイシ国際空港405,173人(同49.31%増)。

・地方の空港の利用者数も2016年より増えている。メステティア空港7,256人(前年比72.19%増)、アンプロラウリ空港1,723人。